モニターのここに注目

今月は渡辺豊子さんが、笠岡のシンボルのひとつである「大仙院」と「おかげいち」に注目。笠岡来たれば、おかげあり。皆さんも出かけてみませんか。

さあ行ってみよう！大仙院

毎月旧暦24日に行われている大仙院縁日とおかげいちについて少し取材してみました。

大仙院とおかげいち

古くから門前町・港町として栄えた笠岡。それを象徴するもののひとつとして、大きな赤い門が印象的な「大仙院」があります。

笠岡の人である「橋野興左衛門」が二十歳のときに大病を患い、伯耆（ほうき）大山の大仙智明大権現に祈願したところ回復。そのお礼参りに伯耆大山に参詣、御分体をいただき、笠岡に建てたのが大仙院です。

「おかげいち」は、大仙院縁日にあわせて開催されています。「まちおこし」と「にぎわい再生」の起爆剤としてはじまりました。おかげを求め、おかげに感謝してお参りする多くの参拝者に対して、商店街が潤うのもお客のおかげという気持ちを込めて、「おかげいち」と命名されたそうです。「笠岡に来たればおかげあり」をキャッチフレーズに、商店街の各通りから集まった店主が、七福神の格好をしておかげ（お菓子）を配ります。

縁日の様子は…

大仙院の赤い鐘桜門の前には、長い行列ができ鐘撞（つ）きの順番を待っています。スサキ通りから露店商が並び、とてもにぎやかに開催されています。乾物、植木、なんだか懐かしい物に出会えたようにも思えます。

また、商店街もあったかいぜんざいの販売など、さまざまな店が工夫を凝らし、格安販売を行っています。最近では、市内の小学生・高校生が模擬店を構えたり、島づくり海社が島の特産物の販売をしたりするなど、いろいろな工夫がなされています。朝10時頃に、七福神たちがおかげのお菓子を配って歩きます。とてもユニークで参拝者の心を和ませています。

参拝者の声

参拝者の皆さんにお話を伺ってみました。

「遠くは行けんけど、大仙さんは笠岡じゃけんバスでこれるけー、昔戦死した兄弟の供養に元気な間は来て、その後買い物をするのが楽しみなんじゃ。でも、帰りが荷物で重とうて…大変じゃ」

「年寄り何人も連れて来ても車の駐車場に困る。どうにかならんかな？」

「笠岡の名物だ！もっともっと皆に知ってもらわんと」

「やっぱり、大仙さんは昔から地元にあると思えば、来とうなるな。日曜日なら孫を連れて来るんじゃ。喜ぶで」

など高齢者の皆さんには、娯楽のひとつでありながら、いまひとつ不満の声も聞かれました。

◆　◆

大仙院縁日とおかげいちは、笠岡の誇れるものとして、笠岡になくてはならないものであり、ずっと伝えていかなくてはならないものだと思います。今一度、行政と市民がみんなが寄ってくる「おかげいち」について考えよう！

そのために、また、笠岡の活性化のためにも、ぜひ一度は、

おいでんせい！笠岡へ

大仙さんに

そして、良い知恵・アイデアをぜひお寄せください。

このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についてのイラ立ち」があれば併せてどうぞ。

お便り…〒七一四―八六〇一　笠岡市中央町一―一
まちづくり推進課モニター係
☎㊾2110　FAX㊾2180